

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 月形町の小・中学校の状況及び今後の体力向上策

学校数:小学校1校・児童数14名、中学校1校・生徒数7名

○ 実技に関する調査の状況

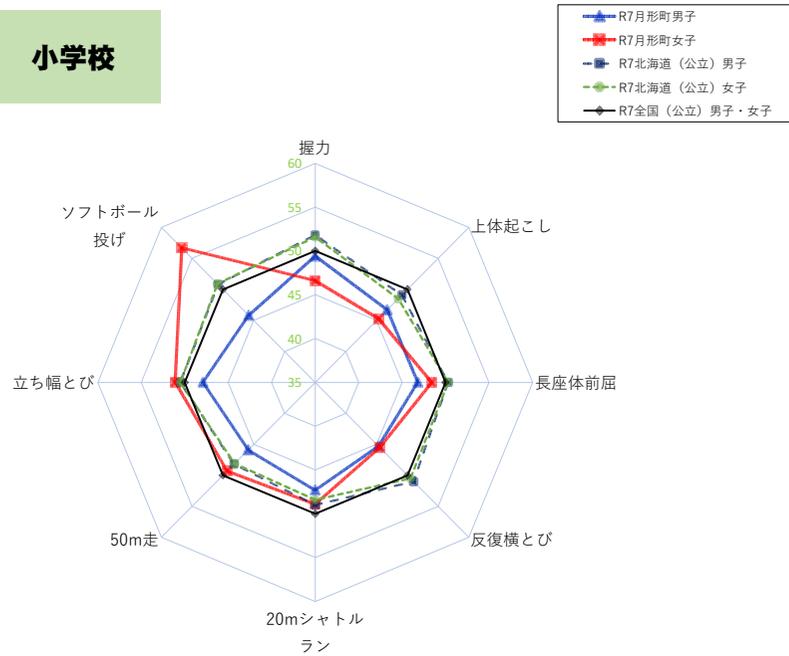
・各種目の記録及び体力合計点

小学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
R7月形町男子	15.71	17.43	31	36.86	42.29	9.91	145.57	17.57	48.14
R7月形町女子	14.29	15.71	36.71	35.29	35.14	9.84	145	16.29	51.86
R7北海道(公立)男子	16.68	18.9	34.13	41.71	45.85	9.66	152.08	21.72	53
R7北海道(公立)女子	16.24	17.54	38.38	39.11	34.35	9.96	143.65	13.56	53.55
R7全国(公立)男子	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
R7全国(公立)女子	15.61	18.36	38.15	38.7	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

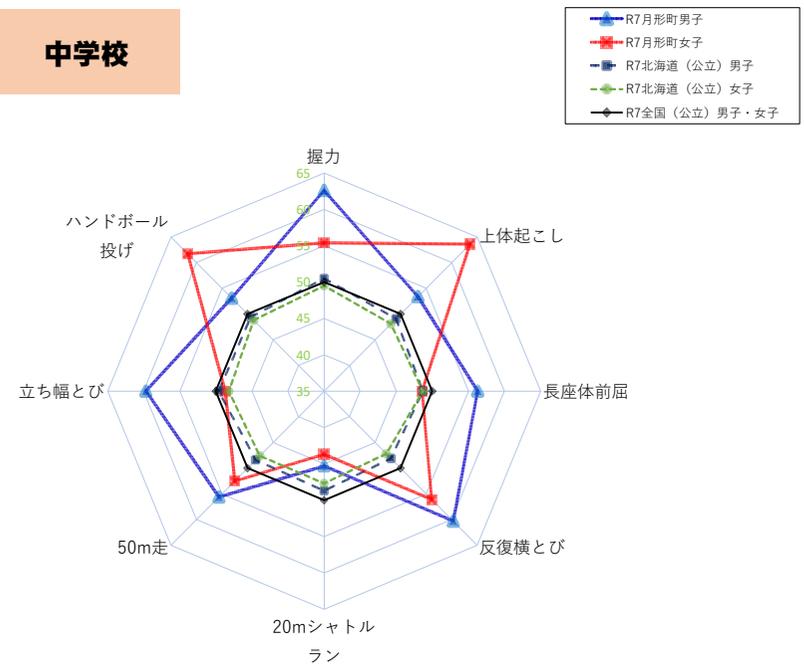
中学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
R7月形町男子	38.25	28.25	52.33	61.25	66.75	7.48	229.25	22.67	50.67
R7月形町女子	25.75	30	45.5	50.5	38.25	8.75	162.75	17.5	52.25
R7北海道(公立)男子	29.32	25.54	43.64	49.85	75.47	8.15	196.24	20.38	40.88
R7北海道(公立)女子	22.89	20.53	45.54	43.55	46.1	9.19	161.4	11.92	44.7
R7全国(公立)男子	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8	197.51	20.74	42.2
R7全国(公立)女子	23.15	21.7	46.99	45.74	50.6	8.97	166.44	12.43	47.58

・各種目の全国平均値を50とした場合(T得点)の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで表示

小学校



中学校



○ 質問調査（児童生徒質問調査・学校質問調査）の状況

小学校

【児童質問調査】

・運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。



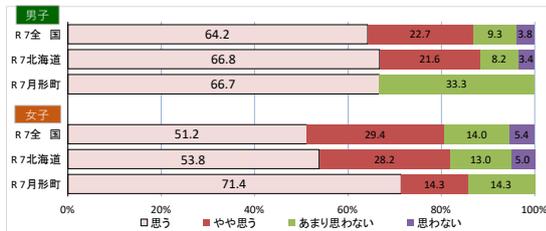
【児童質問調査】

・どんなときに体育の授業が楽しいと感じるか
「できなかったことができるようになったとき」の回答



【児童質問調査】

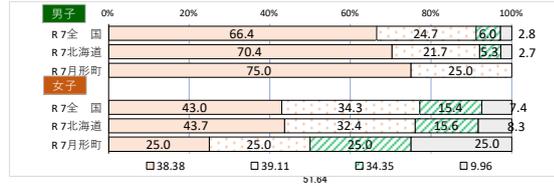
・中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをする時間をもちたいと思いますか。



中学校

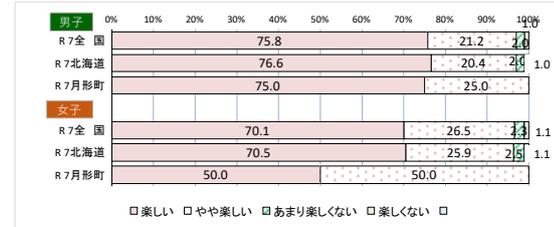
【生徒質問調査】

・運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。



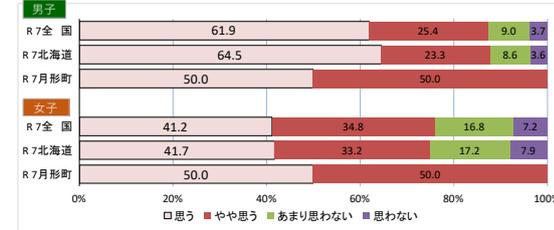
【生徒質問調査】

・どんなときに体育の授業が楽しいと感じるか
「できなかったことができるようになったとき」の回答



【生徒質問調査】

・中学校を卒業した後も、自主的に運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをする時間をもちたいと思いますか。



調査結果の分析

小学校

【成果】

・小学校においては、「運動することが好きですか」の問いに、男子では「嫌い」の回答が28.6%であった。苦手意識があるからか、多くの項目で北海道、全国の平均を下回った。女子は、種目の中でいくつか平均を上回る項目があったが、持久力や綱発力などで平均を下回った。しかし、「運動することが好き」かとの質問では、「好き」・「やや好き」と回答する児童がほとんどであり、運動に対して肯定的である。

【課題】

・体を動かす楽しさにとどまらず、成長を実感できる具体的な目標設定と、スモールステップで成功体験を積ませる指導の工夫が必要である。

中学校

【成果】

・中学校においては、男女ともに多くの項目で、全道・全国平均を上回った。ダンスを取り入れた特色ある授業によって、基礎的な能力が向上していると考えられる。

【課題】

・男女ともに全国及び全道と比較して、20mシャトルランの結果が平均を下回った。持久力を向上させる取り組みが課題と考えられる。

月形町の体力向上に向けた改善方策

- ・小学校では、楽しみながら運動に親しめる環境づくりを進めるとともに、自分の成長を実感できる具体的な目標設定とそれをスモールステップで達成できる指導の充実を図る。
- ・中学校では、大学との連携を進め、体力づくりのプログラムを組み、実施していく。
- ・小中学校ともに体力テストアプリを令和7年度から導入している。アプリによって、体の使い方の学習や観察が可能となり、使用方法を工夫することで体力づくりの一助として取り入れていく。